



福島第一原発事故から14年

事故から満14年になるのに『原子力緊急事態宣言』は解除されていません。この間事故現場は、どうなっているのでしょうか。はつきりしているのは、微々たる変化しかなく、ほとんど進展なしといえます。多くの反対があるのに汚染水を放水しています。また、デブリのロボットによる抽出もうまくいかず、すべてを抽出できるかもわかりません。廃炉を真剣に取り組む姿勢が見えません。自公政権は国民の安全・命のことをあまりにも軽視し過ぎています。この14年間、少しでも未来に希望が持てることはありませんか。目先のささやかな事業に誤魔化されていませんか。我々働くものが優先の社会が展望できますか。

まずは、能登の惨状を何とかしなければなりません。そして、福島の当地に住めないのが、根本対策を再考するしかありません。被災者の方々に十分な補償をしなけ

ればなりません。防衛予算の拡大より被災地に予算を回さなければなりません。ついでには、沖縄の辺野古新基地建設は、とりあえず凍結しましょう。

そうすることが住み良い、平和な日本を発信する絶好の機会と思います。仲間の皆さん、団結して夏の参議院選挙に取り組みましょう。昨年の衆議院選挙で、自公勢力に打撃を与えた勢いを是非、継続させ、人にやさしい社会に変革していきましょう。あきらめず、ともに頑張りましょう。

福島、能登、沖縄に力を結集し、日本再生を目指しましょう。

労働大学運営委員 近藤 泰夫